

# 海気通信

Kaiki News

6号

2015/3/31

発行

千葉市民ギャラリー・いなげ  
〒263-0034  
千葉市稲毛区稲毛1-8-35  
TEL: 043-248-8723  
FAX: 043-242-0729  
http://business4.plala.or.jp/g-inage/

白砂青松の稲毛はどのようにしてできたのでしょうか？さらに、美浜区の下に埋まっている意外な歴史とは？今回は稲毛の地形について少しだけ迫っていききたいと思います。

## 千葉街道沿いの崖の正体



千葉街道に掛かる稲毛陸橋を見上げるとかなり急で高い傾斜が続いている

稲毛陸橋を仰ぎ見ると、高い崖が目に入ります。高さは20mもありそうです。この崖が千葉街道（国道14号）沿いに、登戸神社の方まで続いている風景は、やはりここが海岸だったことを伝えてくれます。この崖を「海食崖」といいます。

この海食崖は、海が上昇して台地を削り、その後また海が後退してできたものだそうです。海辺を見下ろす高台の保養地はこのような地形を生かしてできたのです。

## 美浜区はむかし「陸」だった…！？



### 美浜区が陸だった？

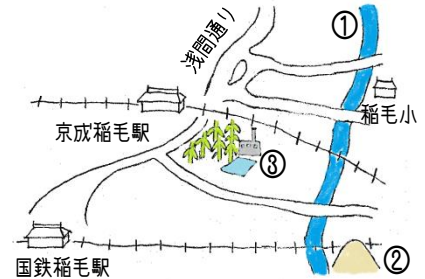
ところが、約6000年前（縄文時代前期）には、この崖が現在の埋立地を走る京葉線の「稲毛海岸駅」の辺りにあったということです！（左図の水玉模様）つまり、美浜区は陸だった？さらに、単に陸地だっただけでなく、人が生活していた痕跡もあったというから驚きです。

その後、海面が再び上昇し、台地が削られ、先ほど紹介した海食崖になります。そして、昭和36年からの稲毛海岸の埋立事業によって、海は陸となり、再び人々が生活をしています。

美浜区の下には今でも海辺と陸の歴史が眠っているのです。

## 稲毛の遊び場

昭和の子ども編



昔の稲毛の遊び場は海水浴場だけではなくたのです。他にもたくさんありました。

### ① 花園川でメダカ獲り

現在は草野水路という名で呼ばれています。昔は川に入ることができ、学校に持参する鉄製のカップでメダカをすくったそうです。ときには水路をさかのぼり沼地（現・あやめ台団地）まで魚をとりに行くことも。今も国道14号近くの草野水路にかかる橋には「花園橋」とあります。

### ② ねんど山で泥メンコづくり

昔、稲毛東のJR総武線高架下辺りには、天然の粘土がとれる小山がありました。その近くの駄菓子屋に売っていた色々な顔の小さな木型に粘土を詰めて、お面をつかったそうです。これを泥メンコというそうです。

### ③ ぶんぶん工場でスケート

現在の稲毛東公園あたりには竹林とでんぶん工場がありました。竹林の木陰にはでんぶん工場のコンクリート製の溜池があり、冬になると水が凍って天然のスケートリンクになったそうです。

## いなげレシピ 浅間まんじゅう



稲毛浅間祭りの頃、各家庭でつくり、親戚・近所に配ったという浅間饅頭のレシピを紹介します。

\*材料（10個分）薄力粉 100g、砂糖 50g  
牛乳 50cc、膨らし粉 3cc、あん 250g

- ① 一口大にあんをまるめ、冷蔵庫で2〜3日寝かせ、水分を飛ばす。
- ② 砂糖、牛乳、膨らし粉を混ぜ、薄力粉を入れて手早くよく練る。
- ③ 2時間ほど生地を置く。
- ④ 生地であんを包み丸める
- ⑤ 蒸し器でふかして完成！



## ♪ Sound of Inage ♪

### 「ばしやん、ばしやん」

稲毛から少し離れた黒砂で聞いた波の音。遠くから届く波の音は静かで心地よかった。

### 「さーさー」

国鉄稲毛駅近くにあったアルコール工場の音。高い建物がなく、松林を抜けて聞こえてきた。

### 「ぺこっぺこっ」

行商の女性たちが背負う海苔の入った一斗缶がなる音。歩きたびになるこの音が子供たちの目覚し代わり。

今回の海気通信は●「稲毛お話会る」ゲストの千葉地理学会・碓茂樹さん●「野口写真館」の野口さん●ギャラリー・いなげスタッフ真壁さんのお話を元に編集しました。